

複数武道種目授業

実践の紹介

「武道推進モデル校」事業を活用した 複数種目（柔道・合気道）の実践

富山県富山市立西部中学校
教諭 藤井 泰則

令和元年度、スポーツ庁より「武道等指導充実・資質向上支援事業」の委託を受け、複数武道種目授業として従前の柔道に加え、多くの武道に触れてほしいという願いから合気道を実施しました。合気道の精神は保健体育にとどまらず、学校生活全般にも生かせると考え、柔道・合気道の実践に取り組みました。令和2年度も引き続き同事業の委託を受けることとなり、前年度の反省を生かし実践をしています。元年度の本校の取り組みについてご紹介します。



泉水から校舎を眺めて（現在は校舎改築中です）

1 学校の特徴

本校は、第1学年129名、第2学年120名、第3学年133名の計382名の中規模校である。富山市中心部西側に位置し、校区には富山大学や県立高校2校、近隣には県立図書館や各種資料館が所在する文教地区となっている。平成30年、令和元年と「文化芸術による子供育成総合事業」の一環として「能・狂言」の鑑賞やスペイン舞踊団の招致などさまざまな伝統文化に触れる機会を設けている。

現在、富山県内ではいくつかの保健体育の授業では多くの領域・種目を学習し、生涯にわたってスポーツと関わり合う資質を身に付けてほしいと願い、日々の授業を実施している。そこで「武道等指導充実・資質向上支援事業」を通じ、柔道と合気道の複数武道種目授業に取り組むこととなった。

2 柔道の実践

本校は、1、2学年において武道の授業を実施しており、柔道を選択して男女別習での授業形態をとっているため、柔道を実施する時期には多少の差異が生じている。また、男性教員が担当する授



道着の着方を確認



講師による技の説明



かかり練習



低い姿勢で練習

・「授業なら仕方なく」と答える生徒が3割おり、武道への意欲はあまり高くないように感じる。

・楽しいと感じた生徒が6割いた。理由としては、ペアでの活動が長く他者との関わりが十分あったことを挙げている生徒が多かった。また、初めて経験することに楽しさを感じている生徒もいた。授業者としては、生徒同士、生徒と教師（講師）の関わりが多く、楽しそうな雰囲気です。

質問①「合気道をまた学習したいですか？」

質問②「合気道の授業はどうでしたか？」

4 授業を終えてのアンケート結果から

けられた。しかし、基本となる動作や技の習得を中心とした学習であつたため、全体的に和やかに授業を展開していくことができた。普段の男女別習での授業ではなく、小学生の頃以来になるかもしれ

れない男女共習に戸惑いを見せる生徒も数名見受けられたが、どちらも一長一短がある。私自身は男女が一緒に実施しても違和感がない武道だと感じた。

3 合気道の実践

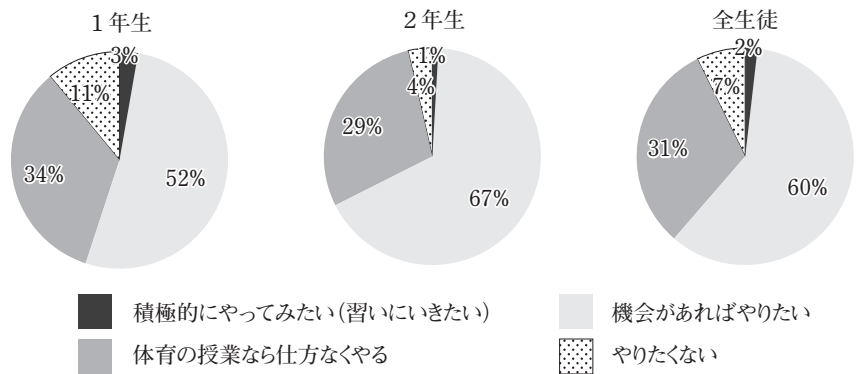
業は教員が実施し、女性教員が担当する授業は、自身が自己の研鑽のため段位も取得してはいるが、外部から講師を招聘し授業を実施している。

習した。終盤では、いくつかの投げ技を体捌きや崩しを中心に低い姿勢から練習を行った。2年生は前年の復習から入り、既習の技については立ち姿勢から、新しい技については低い姿勢からの練習について、安全面にも配慮しながら実施した。

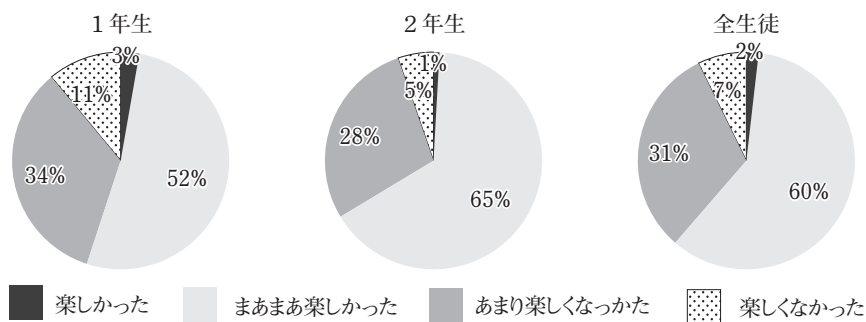
前述した通り、柔道では男女別習での授業形態をとっていたが、合気道の授業は、1、2学年において男女共習で2時間ずつ実施した。スポーツ庁、富山県教育委員会それぞれにねらいはあるが、本校の保健体育科としては、新たな武道を体験することで、武道に「関心をもつ」ことや生涯にわたって運動に親しむための「選択肢」を増やすことを大きなねらいとした。

初めての合気道ということで、1、2学年共に同じ内容での実施となった。礼法や所作の学習から始めたところ、柔道との違いに気付く生徒もいた。実際の合気道がどういうものか分からない生徒も多いと思い、講師の先生方による「基本技演武」も披露していただき、生徒の意欲を高めることができたと思う。一方で、あまりの迫力に「痛そう」「怖い」とマイナスのイメージを持った生徒も見受

質問1「合気道をまた学習したいですか？」



質問2「合気道の授業はどうでしたか」



各自で小手返しの方法を確認



基本技の演武



講師と小手返しを確認



準備運動

については、初めてのことに戸惑い、「上手くできない」「どうすればよいか分からない」と答える生徒が多く感じられた。また、武道は「痛い」「怖い」というようなイメージを持ったまま授業に参加し、そのイメージを拭いきれなかったのではないかと思う。

質問③ 「授業で学習したい武道はなんですか？」

質問④ 「興味のある武道はなんですか？」

・学習したい武道、興味のある武道ともに弓道という意見が多く、全体の半数近くを占めていた。全体的に用具を使う武道の学習に興味のある生徒が多かった。

・その他の項目では、テコンドーやカンフーなどの海外から伝わった格闘技等や茶道と答える生徒もあり、オリエンテーションでの武道の説明が不足していたと思われる。

・幅広く興味のある中で、いかにして生徒の思いを探り、学びたい種目、学ばせたい種目のバラ

5 生徒の感想（合気道）

・私は武道の名前はいくつか知っていたけれど、実際に体験したのは合気道が初めてだったので驚いたことがたくさんありました。実際にやってみたら楽しいなど感じる事ができたので、やってみて良かったと思いました。

・合気道はどんなことをするのか分からなかったけれど、合気道の学習を終えてとても楽しかったです。力が入っていないのに、倒れたり、倒されたりしていて驚きました。体を自由に動かすやっつけられている感じがして、凄く（すご）と思いました。合気道はいつも手と手がつながっているの、心のつながりなのかなと思います

ンスを取りながら年間授業計画を作成しなければならぬのか改めて考えさせられた。

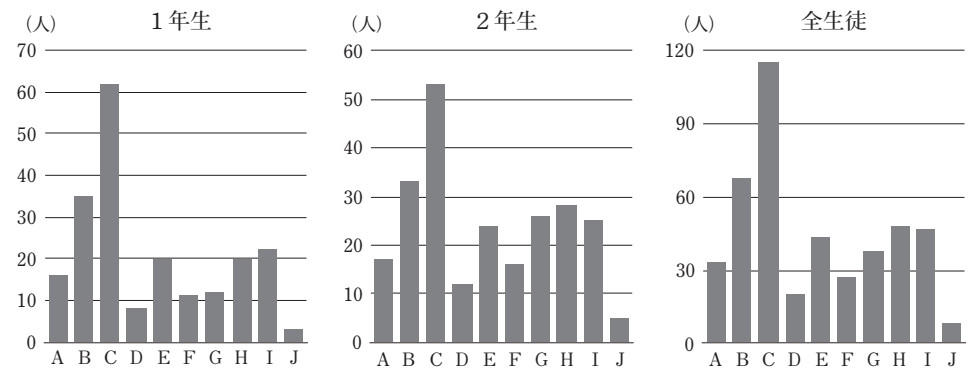
・武道に限らず、生徒の興味・関心が持てるような手立てをすることが体育嫌い、運動嫌いを減

した。合気道は体のしくみをしつかりと考えて技ができていると思いました。武道の授業では、姿勢について学びました。姿勢はすべてにつながるもので、日常生活でも姿勢に気がつくたいと思います。

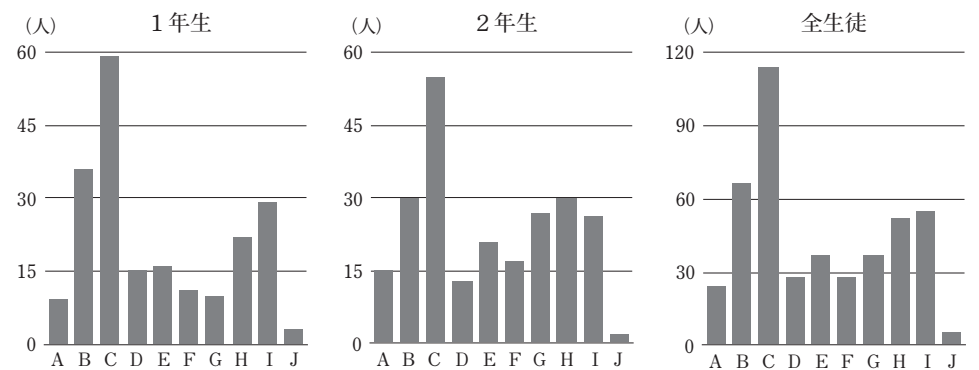
・合気道はとても奥が深くて楽しいことが分かりました。合気道の授業前は、先生から「痛いよ」と言われて少し不安でした。しかし、やってみると柔道と同じで正座はきつかったけれど、相手を倒す技が楽しく、2時間熱中することができたので良かったです。

また、2人の先生方は自分たちがやってみて難しかった技を

質問3 授業で学習したい武道（複数回答可）



質問4 興味のある武道（複数回答可）



A.柔道 B.剣道 C.弓道 D.相撲 E.空手道 F.合気道
G.少林寺拳法 H.なぎなた I.銃剣道 J.その他

6 まとめ

いとも簡単にやっついていて、とても凄く思いました。自分は合気道についてあまり知らなかったけれど、実際にやってみて合

らすことにつながると考えられる。否定的な感想をもった生徒も、

学校現場において、合気道の授業を実施している学校はあまり見られないと思う。その大きな要因として指導者不足が考えられる。

今回、本校で授業を実施するに当たり、特に安全について不安が大きかったが、富山合気会の島恵司氏をはじめ、多くの有段者の方々の協力があつて実施することができた。

皆様には、教員に対する事前研修、実施計画、準備、授業での指導と多岐にわたつてご支援いただき、初めて合気道に触れる教員にとつても充実した時間を過ごすことができた。

また、生徒の武道に対する興味

気道の面白さや素晴らしいことに興味向上したことがアンケートからも見受けられた。新しいことに取り組むことで生徒の思いを引き出すことができたと思われる。ただ、意欲はそこまで向上が見られなかったことが悔やまれる。

学習したい武道、興味のある武道に答えてくれ、数こそ少ないが幅広く興味があるようだ。

これからも、保健体育の授業を通して多くの領域・種目を学習し、生涯にわたつてスポーツに関わりあう資質を身に付けさせていきたい。そして、教師自身が外部の指導者との交流を積極的に図り、武道をはじめさまざまなスポーツに関する情報を得て、生徒に還元していきたい。